

地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年11月末時点）

新規就農者や新たな地域農業組織の育成、担い手への集積を図る				福岡県飯塚市 大分・北古賀地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	24経営体 （11経営体）	農地面積 （うち農振農用地）	157ha	主な農畜産物	水稻
農業地域類型	平地農業地域	遊休農地	—ha	現状の集積率 （目標）	36.2%

地域の現状と課題	将来の地域農業の方向性
・飯塚市は、福岡県の中部に位置し、大分・北古賀地区は市の南西部に位置する盆地。 ・夏冬と昼夜の気温差が激しく内陸性気候の特徴を有している。 ・基幹作物である水稻をはじめとして、麦や大豆を含めた土地利用型の農業が主体であるが、土地利用型農業経営の育成という面では不十分であり、既存の地域農業の組織についても高齢化が進んでいるため、新規就農者や新たな地域農業組織の育成、担い手への集積が課題である。 	・地域農業を維持・発展するために、水田における土地利用型農業経営体（集落営農組織・集落経営体）を育成するとともに、農地集積・効率化を図り、地域の米に偏る生産から一定の農地規模を網羅する野菜品目への転換を進める。 ・戦略作物や高収益作物等の主食用米以外の作物への転換を促進し、水田面積の維持を図る。 ・二毛作を推進して土地の有効利用を図り、地域の生産性向上を目指す。 ・地域の圃場の性質上、他の地域に比べて大豆の収量が少ないことから、適期の播種、圃場の排水対策や土壌管理について周知し、収量向上に向けた取り組みを引き続き行う。

協議を進める過程で発生した課題	取組経緯（課題への対応）及び今後の予定
・目標地図の素案作成（意向調査における調査項目及び示し方）。 ・協議の場の開催に係る周知のやり方。 ・協議の場の参集範囲及び回数。 ・大分地区において農業法人の廃業により利用権設定済みの農地が穴あきとなっているが、後継者（担い手）不足が大きな課題。 ・将来的に営農組合へ集積、労働力は近隣農家や住民を雇用。 ・機械の整理と大型機械の検討。 ・小規模農地の統合。 ・具体的な内容を営農組合と協議（作業受託が可能か等）。 ・営農組合が集積した場合の品目提案。	・意向調査把握では、JAの次世代総点検運動により実施したアンケートを活用し、協議の場における目標地図素案等を作成。 ・令和5年8月7日に協議の場（第1回）を開催し、参加者（集落営農代表者、生産組合長、市、農業委員会、農地中間管理機構、JA他）へ地域計画策定の趣旨を説明し、概ね10年後の地域の農業や農地の在り方について協議。  協議の場の様子 資料には、福岡県農地バンクと協力し農業総合地理情報システムを用いた地図を作成し、JAふくおか嘉穂が実施する次世代総点検運動のアンケート結果を整理した内容を盛り込み協議。 ・第2回協議の場を、農繁期を外した12月に開催 ・第3回協議の場を、6月末に開催し、11月に素案完成。